

6万社のデータから、100年続く企業の秘訣を徹底解析した一冊！

長寿企業の リスクマネジメント ～生き残るためのDNA～



★日本の長寿企業の歴史的研究に長年携わったベテラン執筆者が、中小企業の「歴史の見解に基づいたリスクマネジメント」のあり方をわかりやすく解説。

★6万社の膨大なデータを基に、4つの側面（「人事リスク」「事業リスク」「天災リスク」「倫理リスク」）からリスクを整理・分類！ 実際の企業の事例から、「企業の存続」について解説。

後藤 俊夫 監修
A5判・208頁 定価 本体2,000円+税

目次

はじめに

第1章 長寿企業大国にっぽんの秘密

- 第1節 長寿企業大国にっぽん
- 第2節 企業長寿の秘訣
- 第3節 長寿企業とリスクマネジメント
- 第4節 長寿企業研究：過去とこれから

第2章 人事リスクマネジメント

- 第1節 本章の概要
- 第2節 長期的視点
【事例1】 株式会社山本海苔店 【事例2】 法師旅館
- 第3節 外部人材の活用
【事例1】 株式会社ナベヤ 【事例2】 スズキ株式会社
【事例3】 ホワイトローズ株式会社 【事例4】 株式会社大和川酒造店
- 第4節 女性の活躍
【事例1】 株式会社金剛組 【事例2】 ホッピービバレッジ株式会社
- 第5節 現代経営への応用

第3章 事業リスクマネジメント

- 第1節 本章の概要
- 第2節 妥協しない本物志向
【事例1】 シャボン玉石けん株式会社 【事例2】 勇心酒造株式会社
- 第3節 競合を仲間
【事例1】 ㈱佐藤養助商店 【事例2】 ㈱広貫堂
- 第4節 抜本的な事業改革
【事例1】 ㈱NOGUCHI 【事例2】 近江屋ロープ株式会社
【事例3】 ブラザー工業株式会社
- 第5節 地域と共に
【事例1】 ㈱小布施堂 【事例2】 丁子屋
- 第6節 危機感によるレジリエンス力
【事例1】 森下仁丹株式会社
- 第7節 現代経営への応用

第4章 天災リスクマネジメント

- 第1節 本章の概要
- 第2節 災害に負けない努力・頑張り
【事例1】 ㈱ホテル佐勘 【事例2】 ㈱五島軒
- 第3節 相互支援によるレジリエンス力
【事例1】 ㈱酔仙酒造株式会社 【事例2】 辰馬本家酒造株式会社
【事例3】 ㈱八木澤商店
- 第4節 周知な準備
【事例1】 福田金属箔粉工業株式会社 【事例2】 西川産業株式会社
- 第5節 現代経営への応用

第5章 倫理リスクマネジメント

- 第1節 本章の概要
- 第2節 公私混同の戒め
【事例1】 セイコーホールディングス株式会社
【事例2】 西武鉄道株式会社
- 第3節 時代の変化への鋭敏性
【事例1】 ㈱不二家
【事例2】 江守グループホールディングス株式会社
- 第4節 創業者精神を柱とした統治
【事例1】 キッコーマン株式会社
【事例2】 出光興産株式会社
- 第5節 現代経営への応用

第6章 海外の長寿企業

- 第1節 海外長寿企業の概要
- 第2節 海外諸国と日本の相違点
- 第3節 海外に学ぶべき点
- 第4節 大句型ガバナンス（私企立憲制度）

終わりに：100年経営を実現する！

- 第1節 21世紀型ビジネスモデル
- 第2節 「社会の公器」の源泉
- 第3節 長寿企業のDNA



第一法規

東京都港区南青山2-11-17 〒107-8560
<http://www.daiichihoki.co.jp>

Tel. 0120-203-694
Fax. 0120-302-640

本書の冒頭（第1章第2節）で、長寿企業大國を実現した根拠として日本の価値観について簡単に触れた。以上の説明は、その補足として併読いただければ幸いである。

第3節 長寿企業のDNA

いよいよ本書を閉じるに当たり、長寿企業が形成し長期にわたって伝承して来たDNAのエッセンスを再確認しよう。各章では人、事業、天災、倫理に関わるリスクマネジメントを、事例に基づき掘り下げて来た。第6章では海外諸国と日本の相違点に着目し、愚直・身の丈経営・恩返し・「企業は社会の公器」という日本的な表現に長寿企業のDNAを見いだした。我が国長寿企業の真髄は、企業は「社会の公器」という立場で、世話になった関係者及び社会へ恩返しを続け、無理をしない身の丈経営を着実に続け通す愚直さにある（第6章：175-178頁）。

前節では、「社会の公器」志向に焦点を合わせて、第2章から第5章を総括

終わりに 100年経営を実現する！

し、その思想的根源について約300年前の石田梅岩、さらに日本文明に遡って考察を深めた。「社会の公器」志向に凝集される発想は、三方よし、先義後利、共生の精神など、多様な表現の下で実践され、商人道を構成してきた（第5章：162-166頁）。

これらは、いずれも商人が先代から家業を受け継ぎ、次世代へ、そして後世へ承継し、家業を永続させるために編み出した知恵の結集であり、空理空論とは無縁の存在であった。知恵は、まず創業者をはじめとする祖先に学んで後世へ伝授する方法がとられた。また、繁栄を極める商家を訪ねて、その知恵に学ぶ努力も重ねられた。江戸時代さらに明治期に、他の商家が門外不出としていた家訓・家法を訪ね求める事例が記録に残されている。

長寿企業のDNAとは、要するに私利私欲を戒め、従業員・顧客・取引先ひいては社会のためという奉仕の気持ちと実践の継続に凝集される。社会のためのお役立ち、まずは従業員を大切に、顧客に評価される商品・サービスの提供、取引先に対する真摯な対応など、本業の事業活動で発揮される。

こうした地道な活動で蓄積される信用こそ、商家にとって最大の財産である。ある意味では、商業活動の本質は信用の拡大再生産であり、その実現手段が商品・サービスであると考えたと理解しやすい。

「松下電器は何を作っている会社ですかと尋ねられたら、人を作っている会社ですと答えなさい」という松下幸之助翁の有名な言葉になぞらえて、「信用を頂戴して、更に大きい信用を創り出している」のが長寿企業の存在である。

信用を築くには長い年月を要する。「商いは牛の涎」という表現は関西でよく聞かれる。一獲千金を狙えば失敗する、一時的な盛況に浮かれて破綻してはならないという戒めである。目先の利にとらわれず、長い付き合いを重んじ、牛の涎のように細く長い商いこそ長寿の王道である。

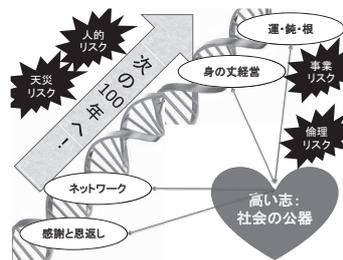
関連して、これも多用される「運根鈍」で本書を閉じよう。言うまでもなく幸運と根気と粘り強さの三つが成功には欠かせないという意味である。伊藤雅俊・セブン&アイ・ホールディングス名誉会長の金言を傾聴したい。

「鈍」は、利口すぎては成功しないことを指している・・・目端を利かせすぎるのは、長い目で見て成功につながらず、むしろ失敗することが

内容見本

多い・・・「根」はお客様から信頼されるまで、根気よく努力する・・・誠実であることには、誇張も派手さも必要ない。むしろ自己犠牲的で、損をした感じがするかもしれない・・・私は誠実さこそ、商人の出発点だと思っています¹。

【図表7-5】長寿企業のリスクマネジメント総括



出典：筆者作成

◎参考資料

- 石川謙 (1938) 『石門心学史の研究』岩波書店
- 伊藤雅俊 (2005) 『ひらがなで考える商い (上)』日経 BP 社
- 坂本信太郎 (1976) 『近世町人教訓書「商人夜話草」』早稲田商学 261、908-946 頁
- 杉原四郎、藤原昭夫、池井孝仁、藤井隆至 (1990) 『日本の経済思想四百年』日本経済評論社
- 土屋喬雄 (1964) 『日本経営理念史』日本経済新聞社
- 土屋喬雄 (1967) 『続・日本経営理念史』日本経済新聞社
- 土屋喬雄 (2002) 『日本経営理念史』日本経済新聞社 (前掲2書の合本復刻)
- 松下幸之助 (1978) 『実践経営哲学』PHP 研究所
- PHP 研究所編 (1993) 『いまだから松下幸之助』『THE 21 7月特別増刊号』
- 松下電器産業㈱ (1968) 『松下電器五十年の略史』
- 松下電器産業㈱ (1953) 『創業三十五年史』
- 余英時 (著)、森紀子 (訳) (1991) 『中国近世の宗教倫理と商人精神』平凡社
- 吉田健一 (2009) 『松下幸之助の人間観と経営哲学』鹿児島大学稲盛アカデミー研究紀要、221 頁
- 劉金才・草山昭主編 (2003) 『二宮尊徳思想論叢1 報徳思想と中国文化-北京大学における二宮尊徳思想国際シンポジウム論文集』学苑出版社

1 伊藤 (2005) 26-29頁

詳細・お申し込みはコチラ

<クレジットカードでもお支払いいただけます>



第一法規

検索

CLICK!